

青丘文庫 月報

No.130
98年6月1日

図書室 〒650-0017 神戸市中央区楠町 7-2-1 神戸市立中央図書館内

Tel 078-371-3351 相談専用Tel 078-341-6737

編集人 〒657-0064 神戸市灘区山田町 3-1-1 (財)神戸学生青年センター内

飛田 雄一 Tel 078-851-2760 FAX 078-821-5878

郵便振替<00970-0-68837 青丘文庫月報>年間購読料 3000 円

ホームページ <http://www.hyogo-iic.ne.jp/rokko/sb.html>

エッセー

沖縄を訪問して

藤永 壯



3月に初めて沖縄を訪問した。今年の8月に、濟州島で4・3事件50周年の国際シンポジウムを開催しようと準備しているのだが、濟州の次は沖縄での開催を予定している。そこで沖縄の方々と交流を深めるため、フィールドワークを兼ねた研究会を沖縄で開くことになったのだ。

周知のように、沖縄戦は日本本土の防衛を準備するための、時間かせぎの戦闘であった。見過ごせないのは、この戦闘で1万名以上の朝鮮人が死亡したと言われていることである。いかもその大半は強制連行された軍夫や慰安婦であったと推測されているが、その詳細な実態は資料不足から、今日なお明らかにされていない。

ところで今回の沖縄訪問は、私にとっては、沖縄現代史と解放直後の南朝鮮の状況を比較して考えてみる機会となった。沖縄はアメリカ軍単独の直接統治を受けたという点で、解放直後の南朝鮮と共通した性格をもっている。これは人民委員会を通じ間接統治が実施されたソ連軍占領下の北朝鮮や、日本政府を介し連合国の間接統治を受けた日本本土とは、きわだった対照をなしている。

一方で沖縄は南朝鮮に比べると、米軍政と正面から対決をはじめる時期がかなり遅れた。その最大の理由は、何と言っても沖縄戦により民衆の生活が完全に破壊されたところにあるのだろう。しかし次のような事情も考慮しておく必要があるようだ。敗戦直後の沖縄では、南朝鮮と同様、左派勢力はアメリカ軍を日本帝国主義からの「解放軍」と規定していた。だが沖縄の場合は、左派勢力が「沖縄独立論」を唱え、これがアメリカによる日本からの分離政策と表面的には一致する側面を持っていたというのである。

沖縄の社会運動勢力が、日本本土への復帰運動へと方向転換したのは、1950年代初めのことと言われる。アメリカの軍事支配が、沖縄住民の生存権を脅かす存在であることも次第に明白となった。こうして本土復帰運動と反米闘争は結びつき、あの「島ぐるみ闘争」が繰り広げられることになるのだが、このような歴史的脈略をどのように総括、評価すべきなのか。専門外ではあるが、気になるところである。

また解放後、南朝鮮の占領政策を担当したホッジ中將を司令官とする第24軍団が、沖

繩上陸作戦の主力部隊の一つであったことも、よく知られた事実である。とすれば沖縄戦の体験が、アメリカの南朝鮮占領政策に何らかの影響を与えたのではないかと推測されるのだが、具体的にこの点を明らかにした研究は、いまだ現れていないようである。これもまた大いに気になる問題である。

沖縄の歴史的経験を知ることによって、これまで気づかなかった朝鮮現代史の特質に考えをめぐらせたことは、今回の沖縄訪問の大きな収穫であった。東アジア社会の歴史的空間の中で朝鮮近現代史を考えることの重要さを、改めて実感した次第である。

第170回朝鮮民族運動史研究会(98年4月12日)

在満朝鮮人民会と朝鮮民団設立運動

—1923年の間島における朝鮮人「自治」要求—

廣岡浄進

1920年から21年にかけての間島出兵ののち、間島・琿春では、総領事館ないし領事館警察分署の所在地計18ヶ所に、総領事館の監督を受ける親日団体として朝鮮人民会(以下民会と略す)が成立した。民会は従来、おもに朝鮮総督府の懷柔政策との関連から評価されてきた。いっぽうで『外務省警察史』や『東亜日報』からは、総領事館の統制からはなれようとする民会の動きも浮かび上がってくる。

23年2月13日に龍井村で起きた中国兵による朝鮮人青年銃殺事件を受けて、龍井村民会は龍井市民大会を開いた。中国政府への抗議、日本国籍離脱、間島住民大会開催が決議された。国籍離脱の理由としては、日本政府が朝鮮人の生命財産を完全に保護しないことが挙げられた。だが日中双方の官憲からの圧力で、26日より開かれた間島住民大会では「自治」請願へと方針を転換し、自治機関「朝鮮民団」の設立が決議された。翌3月には「朝鮮民団章程」が作成され、4月には間島住民大会地方委員会が持たれたが、総領事館側と中国側は「自治」に反対し、取締りを強化したため、5月頃にはこの運動は立消えとなったようである。

朝鮮民団章程では、朝鮮民団は間島在住朝鮮人の生命財産の安定と福利の増進を目的とし、教育・産業・衛生・交通・仲裁・警護・新聞発行などの事業を手がけるとされた。この運動の「首脳者」は領事館警察の末松警視に、その趣旨は「現在ノ朝鮮人民会ニ改善ヲ加ヘ、在住鮮人全部ヲ朝鮮民団ニ於テ管轄シ(中略)在住鮮人ハ日支両官憲ト円満ナル連絡ヲ保チ、生活上ノ福祉ヲ図ル」ことにあると述べている。また、この運動には民会関係者が多数関与し、各地の民会が運動の拠点とされた。こうした事実は、間島の地域社会における民会の実態や性格について再検討していく材料のひとつとなると考えている。

「自治」要求の背景を考察するには、本報告で参照した史料だけでなく、『朝鮮日報』や『外務省特殊調査資料』などから多角的に間島在住朝鮮人の生活実態を検討すべきである。同時期の満洲で展開された朝鮮独立運動との連続性もありうる、等のご指摘もいただいた。今後の課題としたい。



第204回在日朝鮮人運動史研究会関東部会(98年4月12日)

神戸市立外国人墓地に眠る2人の宣教師

—W. B. スクラントン、L. L. ヤング—

飛田 雄一



最近、神戸の名所?として飛田が案内することのある神戸市立外国人墓地に朝鮮ゆかりの2人の宣教師が眠っている。表題の2人である。墓地は、神戸三宮の北方・再度公園にある。

スクラントン(William Benton Scranton 1856~1922)は、アメリカ監理会韓国医療宣教師で、韓国名は「施蘭敦」。1856年5月29日、アメリカ・コネチカット州ニューヘブンで生まれた。母は、梨花女子大をつくったスクラントン夫人である。1885年、日本でしばらく滞在したのちソウルへ。北米長老会宣教師 H.G. アレンが経営する済衆院でともに医療活動を行い、9月10日からは貞洞病院を開院した。ハングル聖書翻訳委員会の翻訳委員にも委嘱され聖書事業にも大きな貢献をし、1907年6月、22年間の韓国宣教師としての仕事を終え、1922年3月神戸で死亡した。スクラントンは、時の政権に近づくことなく「裸足の医者」的に最後まで働いた宣教師である。

ヤング(Luther Lisgar Young 1875~1950)は、カナダ長老会宣教師で、韓国名「榮在馨」。1906年朝鮮にわたり咸興、城津、元山等の宣教部に配属されて主に教会の仕事に従事したが、1925年から教派を離れて宣教活動を行う。1927年には日本に赴任し、神戸に根拠地を置いて九州からサハリンまで広範囲に散在していた朝鮮人を対象とした宣教を開始し、解放前までに彼が設立した教会だけでも61教会に達する。1931年神戸で彼の宣教25周年記念式が挙行され、1934年には韓国人教会だけで作られた在日朝鮮基督教会(大会)の初代の会長となる。第2次世界大戦勃発により1942年(在日大韓基督教会宣教90年略史では1939年)帰国を余儀なくされた。終戦後再び日本に渡って戦後の教会再建に尽力していた1950年2月日本で死亡したが、彼の葬儀は在日大韓基督教会総会葬として挙行されている。

ヤングに関しては、在日朝鮮人関係の年表には、度々登場する人物で、最近刊行された『愛知県下における「朝鮮基督教会」の歩み』でも、戦前の中部地方でのキリスト教宣教の中心人物としてその自伝とともに紹介されている。(墓地内での墓地内での「番地」は、スクラントンは「B1区10番」、ヤングは「B1区18番」。一般的な刊行はできないが、人物を特定してお墓参りは可能である。)

以前、日韓キリスト教史研究会(現在休会中)と韓国基督教史研究会のメンバーで訪問したが、二人の宣教師のことを紹介した「神戸外国人墓地ガイド」を作成したいと思っている。

韓国基督教歴史研究所著・信長正義訳

3・1独立運動と堤岩里教会事件

神戸学生青年センター出版部刊/四六版、250頁、1800円(送料310円)
購入希望者は、郵便振替<01160-6-1083 財団法人神戸学生青年センター>に送料とも2110円を送金下さい。

青丘文庫研究会のご案内

東西合同研究会／第206回在日朝鮮人運動史研究会

※ 同研究会関東部会との合同研究会です。関東のメンバーに青丘文庫を6月6日(土)午後、青丘文庫を訪問していただきます。同日午後5時より神戸学生青年センターで研究会を開きます。(※ 朝鮮民族運動史研究会は休会としますが、是非、都合がつけばこの合同研究会にご参加ください。)

日時 6月6日(土) 午後5時～8時、

終了後に交流会を開きます

会場 神戸学生青年センター TEL078-851-2760

(阪急六甲下車徒歩2分、地図参照)

報告①「改めて強制連行の『強制』の意味を考える」山田昭次

報告②「強制連行全国交流集会の取り組み」飛田雄一

報告③「近年の強制連行関連論文」堀内 稔



7月の研究会

在日朝鮮人運動史研究会(7月12日)堀内稔

朝鮮民族運動史研究会(7月12日)報告者未定

会場／青丘文庫(神戸市立中央図書館内)

阪神教育闘争50周年記念誌 忘れまい4・24

朴柱範さん獄中詩 2編／(解説)「4・24教育闘争を記念して」／朴柱範さん経歴、獄中写真／関連新聞記事(「解放新聞」ほか)／4・24教育闘争関連年表／初公開写真(徐元洙さん提供)／(資料)『阪神教育闘争記録画報』(1948年10月)／資料リスト(決定版)／「4・24의 노래」(4・24の歌)／B5、32頁、400円(〒160円)
※ 必要な方は送料とも560円。80円切手7枚を学生センターまで。

編集後記

★梅雨に入りました。いかがおすごでしょうか。6月号をお送りします。「会員証」(98年度)ができましたので、申し込まれた方に本号月報に同封します。

★ことしの「朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える全国交流集会」は8月8～9日、金沢です。よろしく。(編集長／飛田 E-mail rokko@po.hyogo-iic.ne.jp)